



【男子ダブルス1部・決勝】攻守に体を張り初優勝を決めた江陵の（手前から）島尻慎悟と奥秋祐人

奥秋・島尻組（江陵）初V

全十勝高校バドミントン 女子は形部・池田組（大谷）

バドミントンの第8回小林純幸杯争奪全十勝高校春季大会兼第73回国体道予選会（少年の部）十勝地区予選会（十勝バドミントン協会主催）第1日は21日、帯

瑛里沙組（同）に2-0で勝利し、初の頂点に立った。男女上位5組と推薦選手の佐藤陸・上山昇大組（帯大谷3年・2年）、田嶋涼花

・只野未紅組（同3年）は、5月11〜13日に小樽市内で行われる国体道予選会の出場権を得た。（北雅貴、折原徹也）

隙ないプレー 圧勝 奥秋・島尻組

柏葉高体育館と札内スポーツセンターで男女のダブルスが行われた。男子1部決勝は奥秋祐人・島尻慎悟組

男子ダブルス1部決勝で、相手のクリアがサイドアウトして優勝が決まった瞬間、奥秋祐人と島尻慎悟は雄たけびを上げた。今まではあと一歩で届かなかった

めっちゃうれしい」と満面に笑みを浮かべた。決勝では、強打に自信のある島尻が次々とスマッシュを決めた。前衛の奥秋は早いタッチで相手の陣形を崩し、島尻に好機を与え続けるプレーを展開。攻撃的なレシーブを連発して主導

上宿生・岡田浩介組（帯大谷3年）を2-0で破って初優勝を果たした。女子同は帯大谷勢同士の対決となり形部優菜・池田彩綺組（3年）が奥村玲音・竹田

顔。島尻も「最高の気分。

権を握り第1ゲームを奪取した。第2ゲームでも持ち味を発揮し、相手に付け入る隙を与えなかった。田代浩司監督は「自分たちのプレーを持続できた良い試合だった」と成長に目を細めた。

奥秋は主将として男女計32人の部員を束ね、責任感も人一倍持つ。奥秋は「全道で実力高の旭川実業を破り、インターハイ切符を」と今季の目標を見据えた。

8連続ポイント リード広げ勝利 形部・池田組

○：形部優菜はショットを相手陣の中央奥に決めると、ペアの池田彩綺とカッツポーズして喜びを表現した。形部は「この大会の優勝を目標に2人でずっと練